

<白金標準、根底の供給不足は不変であり下げ渋る値動き・・・>



(出所：オアシス)

白金標準先物は、需給報告で3年間連続の供給不足を意識し、NY 白金が1150 ドルを上回るとレンジ離脱の動きが加速し、関税の要因や中国の宝飾需要に備えた現物購入が示され、2014年7月以来の1511ドルまで高値を試し、白金標準先物も6319円まで踏み上げている。ただ関税の要因は、金に対する関税否定に始まり、銅に対する関税も金同様に現物に対する関税は否定されている。特にロンドン市場のリースレートは、1ヶ月物で一時40%まで上昇したが、現在では14%まで低下しており、1年物は10%も下回るなど関税の伴う過剰反応は落ち着きを見せている。しかし依然と供給不足要因は存在しており、ノースアム・プラチナムのポール・ダン最高経営責任者（CEO）は「最近の価格上昇はPGMセクターに一定の救済をもたらしている」と述べるも「しかし業界全体で持続可能な採掘を支える水準にはまだ達しておらず、新たな操業開発に不可欠な水準には到底及んでいない」と述べ「2008年には南アフリカで81のPGM坑道が稼働していたが、現在は53のみ。この数は今後も減少が続くと予想される」と発言するなど、白金価格の高止まりは今後も続く可能性が高いと思われ、白金標準先物でも5700円台は買い有利な展開が続くと思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の週足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが切り下げながら、シグナルは上昇が止まり。またRCIでは短期が切り上げ、長期は高値を維持している。ただ日足が指数平滑移動平均線のレンジ内で推移しており、5700円に向けた動きに思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,955,000 円(2025 年 9 月 1 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 79,200 円(2025 年 9 月 1 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>